

製品名: C1s ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07735**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	77kDa

抗原情報

遺伝子名	C1S
別名	C1S; Complement C1s subcomponent; C1 esterase; Complement component 1 subcomponent s
遺伝子 ID	716.0
SwissProt ID	P09871
免疫原	抗血清はヒト C1S 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 541-590

背景

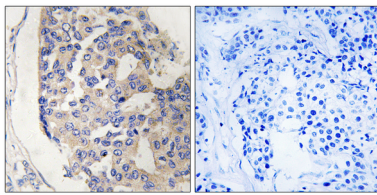
この遺伝子は、ヒト補体サブコンポーネント C1 の主要構成成分であるセリンプロテアーゼをコードしています。C1s は、他の 2 つの

補体コンポーネントである C1r および C1q と会合して、血清補体系の最初のコンポーネントを生成します。この遺伝子の欠陥が選択的 C1s 欠損症の原因です。[RefSeq 提供、2009 年 3 月]、触媒活性: 補体コンポーネント C4 の Arg-|-Ala 結合を切断して C4a および C4b を形成し、補体コンポーネント C2 の Lys (または Arg) -|-Lys 結合を切断して C2a および C2b を形成する、いわゆる「古典的」経路の C3 転換酵素。、疾患: C1s の欠陥が選択的 C1s 欠損症の原因です[MIM:120580];早期に発症する複数の自己免疫疾患に関連しています。、酵素調節:SERPING1 によって阻害されます。、機能:C1s B 鎖は、C1q および C1s と結合して補体系の古典的経路の最初の構成要素である C1 を形成するセリンプロテアーゼです。C1r は C1s を活性化し、それによって C2 と C4 を活性化します。、オンライン情報:C1s 変異データベース,PTM:鉄および 2-オキソグルタル酸依存性のアスパラギン酸およびアスパラギンの 3 位水酸化は、EGF ドメイン内で(R)立体特異的です。、類似性:ペプチダーゼ S1 ファミリーに属します。、類似性:EGF 様ドメインを 1 つ含みます。、類似性:ペプチダーゼ S1 ドメインを 1 つ含みます。、類似性:CUB ドメインを 2 つ含みます。、類似性:Sushi (CCP/SCR)ドメインを 2 つ含みます。、サブユニット:C1 は、C1q、C1r、C1s からなるカルシウム依存性の 3 分子複合体で、モル比は 1:2:2 です。活性化された C1s は、重鎖と軽鎖がジスルフィド結合したヘテロ二量体です。、

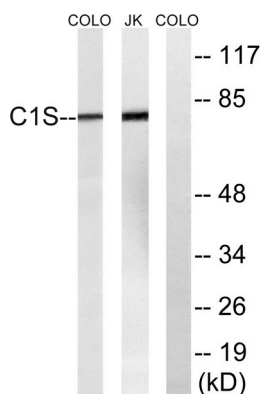
研究分野

補体および凝固カスケード;全身性エリテマトーデス;

画像データ



C1S 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



C1S 抗体を用いた Jurkat 細胞および COLO 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。